

谷川岳山行報告

【山行日】2023年 1月 13日(金) 快晴

【集 合】岩舟支所P AM 6:00

【費 用】マイカー1台 : 7,300円

【メンバー】CL:鈴木、SL:廣瀬
石澤、福島

【コースタイム】岩舟支所 P6:00=谷川岳ベースプラザ P7:40/8:30+++天神平 8:40/9:00~熊穴沢避難小屋 9:50~トマの 11:00/11:10~オキの耳 11:30/11:40~鞍部 11:50/12:20~熊穴沢避難小屋 13:00~天神平駅 13:30+++谷川岳ベースプラザ P13:45/14:00=道の駅「みなかみ水紀行館」14:20/14:50=岩舟支所 16:20



先日の北八天狗岳山行で、「来週も何処か雪山に登りたい」という会話があり、湯の丸山と烏帽子岳を考えていた。天気予報を見ると、13日は晴天で気温が高い予報なので、谷川岳に登る計画を立てて会員の皆さんに案内を送った。3名の申し込みがあり、4名で岩舟支所を6時に出発する。谷川ベースプラザに着き、出発の準備を整え6階の受付にてゴンドラのチケットを購入する。往復3000円のチケットだが、モンベルカードで100円割引された。8:30のゴンドラに乗り天神平を9:00に出発する。狙い通りの好天に恵まれ、ゲレンデ脇に付けられたトレースを登って行く。直ぐに夏道から外れ、左の急坂を登るようになり息が切れる。ようやく尾根上に登り上げ、展望が開け景色を楽しみながら歩ける。前方を見上げると、谷川ブルーの空に天神尾根が山頂に向かって白く伸び、「コレコレこの景色に出会いたかったんです！」と心を弾ませながら登って行く。尾根通しに快調に登って行き、途中小ピークを乗越した先の急な下りは慎重に降りて行く。この先緩やかなアップダウンを繰り返すと、熊穴沢避難小屋に着くが小屋は完全に雪に埋もれていた。小屋の上の平らな場所で小休止し、衣服調整と水分を補給する。今日は絶好の雪山登山日和で、オーバージャケットを脱いで丁度よい。ここからはヤセ尾根を進むようになり、銀世界の絶景を見ながら快調に登って行く。やがて天狗の腰掛岩に着くが、岩の先端が少し出ているだけでほとんど雪に埋もれていた。



この先は広い雪面の急登が続き、頑張って登り切ると肩の広場に出る。ここからは真っすぐ山頂に



向かうトレースと、肩の小屋に向かうトレースに分かれるが一旦肩の小屋に向かった。肩の小屋のトイレを確認するが、冬季はロープで縛られていて使用不可。小屋から山頂に向かい、ほんの数分で一つ目の山頂トマの耳に着く。トマの耳からの展望は素晴らしいの一言である。湯檜曾川を挟んで白毛門や朝日岳から巻機山が聳え、西は苗場山や仙ノ倉山、万太郎山など上信越の山々が望める。雪の上に出ている山頂標識前で記念写真を撮り、眺望を楽しんだらもう一つの山頂オキの耳に向かう。

一旦鞍部まで下り、登り返すとオキの耳に着く。こちらの山頂も眺望が素晴らしく、登ったばかりのトマの耳が眼前に聳え、東側がスッパッと切れ落ちた山頂をカメラに収める。山頂先で昼食の予定だったが、少し風が出て来たので戻ることにする。鞍部まで戻り、エビの尻尾が付いた大きな岩の裏側は風が無く、ここでランチタイムとする。各自持参したカップ麺やスープを作り、パンやお稲荷さんをいただく。ランチが済んだらトマノ耳まで戻り、もう一度景色を楽しんだら下山開始する。下山は往路を戻り、下りは余裕があるので景色を楽しみながら下れた。空には薄雲が掛かり、



谷川ブルーは見られなくなったが、太陽に回りに円形の虹が掛かりとても美しい。後で調べたら、ハロと呼ばれる天気が下り坂の時に現れる気象現象だと分かった。この珍しい気象現象と雪景色を楽しみながら、余裕で天神平駅まで下れた。駅でトイレを済ませ、ゴンドラに乗って土合口駅に着く。駐車場に戻り、靴を履き替えたら車に乗り、帰路につく。途中、道の駅「みなかみ水紀行館」に寄り、食堂のテーブルでティータイム。女性達はコーヒーを注文し、残ったおやつを全



部出していただいた。その後、直売所でリンゴ等のお土産をゲットし、岩舟支所へと向かった。平日なので高速道も順調に走り、予定よりも早く岩舟支所に帰着出来た。厳冬期の真白な谷川岳に登ることが出来、皆さん大満足の雪山山行となった。